

議決権行使レポート

証券コード 9003

会社名 相鉄ホールディングス

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金配当の件	○		
第2号議案 取締役7名選任の件			
林 英一 氏	○		
滝澤 秀之 氏	○		
平野 雅之 氏	○		
後藤 亮一 氏	○		
加々美 光子 氏	○		
恩地 祥光 氏	○		
藤川 裕紀子 氏	○		
第3号議案 監査役3名選任の件			
峯岸 恭博 氏	○		
中西 智 氏	○		
野澤 康隆 氏	○		

上記の推奨をした理由

・第1号議案

長期にわたって健全な経営を行うため内部留保の充実を図っていると記述があるが、これはコロナ禍で痛手を受けた経験から行われていると考えられ、将来への備えとしてこの判断は妥当であるといえる。また、配当金はコロナ後回復傾向にあるが、営業利益はまだコロナ前の約半分であり完全には回復していないため、配当金がコロナ前の半分であることも妥当であると思われる。配当性向はコロナの影響で近年大変流動的であり、前年に比べ大きく低下しているもののコロナ以前の通常と言える水準に戻っているため、この剰余金の配当に賛成である。

・第2号議案

林 英一 氏

2000年から当社取締役、2012年から当社代表取締役として、2019年からは代表取締役会長として経営に携わっておられる。20年以上も取締役を任されているという実績からそれ相応の実力を持ち人々に信頼されている人物であると判断でき、林氏の選任に賛成である。

滝澤 秀之 氏

2019年から取締役、代表取締役、社長、社長執行役員を同時に任されていることから、優れた素質を持つ人物であると判断できる。さらにグループの中核である相模鉄道（株）において取締役社長として経営に携わっており、当社の経営に重要な人物であると思われ、滝澤氏の選任に賛成である。

平野 雅之 氏

2018年から当社の取締役であり、さらに現在横浜熱供給株式会社、相鉄ネクストステージ株式会社の取締役社長を兼職しており、取締役として優れた素質を持っていると言える。ゆえに平野氏の引き継ぎの選任に賛成である。

後藤 亮一 氏

唯一の新任である。2019年から相鉄ビジネスサービス株式会社、相鉄保険サービス株式会社の取締役社長として経営に携わっている方であり、優れた素質を持つ人物であると判断できる。また、当社の経営戦略部門での実務経験から財務・会計に対して高い専門性を持ち、社内取締役で財務分野に特化しているのは後藤氏のみである。ゆえに、後藤氏の選任により財務の分野に関してより詳しい経営ができると考えられ、選任に賛成である。

加々美 光子 氏

2015年から当社の取締役であり、弁護士としての法令等に関する専門的な知識と幅広い知識を持つ方である。同氏は社外取締役または社外監査役となること以外の方法で会社経営に関与したことはないという記述が少し気にかかるが、7年間継続して社外取締役として任命されており信頼があること、他の株式会社からも社外取締役や社外監査役を任されていることから、実力が伴い、当社の経営に良い影響を与えてくれる人物であると判断でき、選任に賛成である。

恩地 祥光 氏

2020年から当社の取締役である。恩地氏は他にグループ外の三つの会社を兼職しており、グラス・ルイスの基準によれば反対助言が行われるだろう。しかし、過去に様々な会社で勤務して得た幅広い知見や、有限会社オズ・コーポレーション、株式会社レコフでの経営者としての豊富な経験を有する方である。社内取締役候補の方の中にも経営者として経験を積んだ方がいたが、当社の系列でない会社での経験をより多く積んでいるのはおそらくこの方であり、その経験は当社の経営にも大いに活かされるものであると推測できる。海外事業に対して専門性を持つ人が他に取締役候補にいないことより、恩地氏の専門性は貴重であるといえる。よって、恩地氏の選任に賛成である。

藤川 裕紀子 氏

2020年から当社の取締役であり、公認会計士として財務及び会計に関して専門的な知識を持つ。同氏が社外取締役を務めていた東洋証券株式会社において業務改善命令を受けた際、適切な提言を積極的に行っていたという実績から、当社の経営に関しても同様に適切な助言を行う能力を持つと推測できる。よって藤川氏の選任に賛成である。

2023年度の決算において大きな利益減少などはなかった。そのため、継続して取締役を選任する方々に賛成である。

・第3号議案

峯岸 恭博 氏

新任であるが、当社執行役員として業務執行に携わり、さらに当社管理部門、経営戦略部門を歴任していた経験から、財務会計に関する知見を有し、監査役として十分な素質を持っているといえる。よって峯岸氏の選任に賛成である。

中西 智 氏

経営者としての経験やSMBCファイナンスサービス株式会社特別顧問を兼職しているという情報から、財務に関する知見や経営者としての優れた素質を持っていると考えられ、それが監査業務に活かせると思われる。よって、中西氏の選任に賛成である。

野澤 康隆 氏

新任であるが様々な銀行での取締役の経験、現在株式会社浜銀総合研究所代表取締役会長を兼任していることから経営者として優れていると考えられ、それを監査業務にも生かせると考えられる。よって野澤氏の選任に賛成である。

総合評価

グラス・ルイスによると、役員の活動状況を精査する際、取締役会への出席状況も重要な要素の一つだと考え、年間を通して出席率が75%に満たない役員に対して反対助言を行うとしている。取締役候補と監査役候補（新任を除く）全員の取締役会、監査役会の出席率は100%であり、賛成基準を満たしているといえる。

2023年2月開催の株主総会より、プライム市場上場企業に求めるジェンダー・ダイバーシティ基準が変更され、取締役会には最低でも10%以上の多様な性別の取締役を求めるようになった。取締役7人のうち2人が女性であり、当社はこれを満たしている。しかし、

両女性とも社外取締役であり、社内監査役と監査役員には女性が起用されていない。割合としては基準を満たしていると言えるがこの部分には疑問が残り改善が必要であると考えられる。しかし、一人一人の能力に関しては申し分なく、取締役を任せることに関しては賛成である。

また、取締役会は多様な経歴を有しその役目に適した経験を持つ役員によって構成されるべきであると考えられている。当社のスキルマトリックスによると企業戦略・経営戦略、財務・会計、人事・労働、法務・リスクマネジメント、サステナビリティ、運送業、流通業、不動産業、ホテル業、海外事業の10分野に分類されており、それぞれの分野に精通する者が数人ずつおり、十分な多様性が確保されておりこれを満たしている。しかし、監査役のスキルは企業戦略・経営戦略、財務・会計、法務・リスクマネジメントに偏りが見られるため、監査役全体のバランスを整える必要があるとも考えられる。最低でも、社外取締役1名は、業界との関連性のある経験や知識を有する人物であることが望ましいと考えられており、恩地氏が経営に関して専門性を持っていることからこれを満たしていると言える。

さらに、人数に関して、取締役の人数は最低限の人材の多様性や意思決定能力を保つため5人は必要で、意思決定の迅速性に影響が出る恐れがあるとして20人以内とされている。当社の取締役は7人でありこの基準を満たしていると言える。